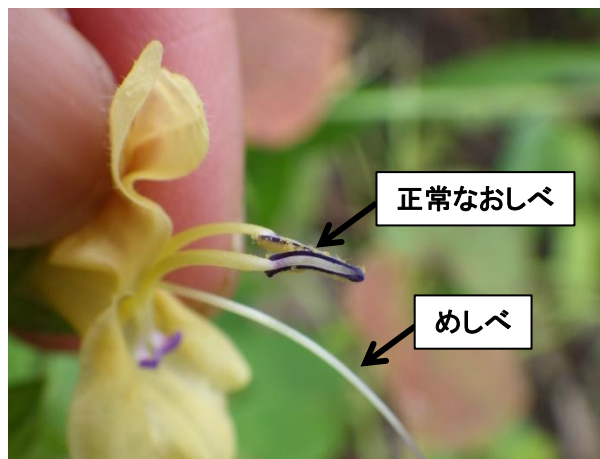


## 植物多様性センターの「キバナアキギリ」

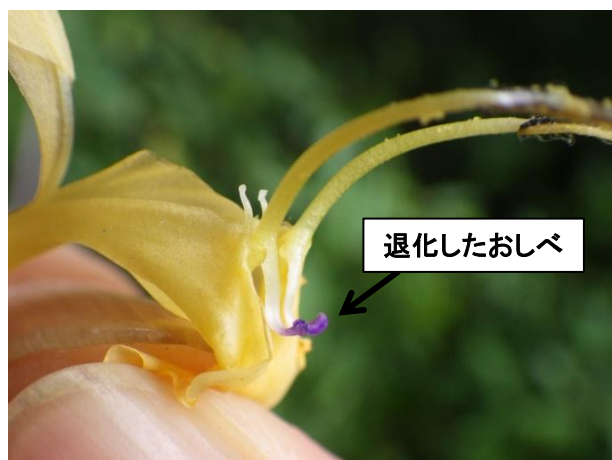
キバナアキギリは秋の山に咲く代表的なシソ科の植物です。シソ科特有の唇形の花をつけますが、おしべの構造は受粉のために変化しており、正常な2本のおしべは上唇に隠されていてそのままでは見えません。外から見える退化した紫色のおしべに昆虫が乗ると、正常なおしべが飛び出て、この原理で花粉が体に付く仕組みです。10月半ばごろまで奥多摩ゾーンで見られますので、観察してみてください。



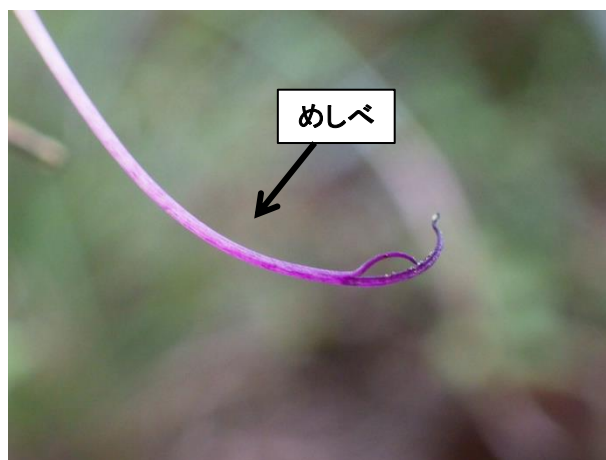
キリに似た淡い黄色の唇形花を、節ごとに輪生してつける



上唇の中にめしべと2本の正常なおしべが隠されている



退化おしべに昆虫が乗ると上唇のおしべが飛び出し花粉がつく



体に花粉がついた昆虫が訪花すると、めしべの先に花粉がつく